

高等学校 令和8年度（3・4学年用） 教科

家庭 科目 保育基礎

教科： 家庭

科目： 保育基礎

単位数： 2 単位

対象学年組： 3・4 学年

教科担当者： 松山 英美

使用教科書：（ 教育図書 保育基礎 ）

教科 家庭

の目標：

【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 保育基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・保育者にはどんな役割があるかを知る。 ・子供にかかわる主な職業の例を挙げる。 ・仕事内容、職業への就き方、必要な資格について知らせる。	・子供にかかわる主な職業 ・仕事内容、職業への就き方、必要な資格について	【知識・技能】 保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 【思考・判断・表現】 子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】 子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	○	○	○	4
	・子供の保育 保育の意義、環境、方法	・保育の意義、保育の環境、保育の方法	【知識・技能】 保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 【思考・判断・表現】 子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】 子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	○	○	○	8
	子供の発達 ・世界を広げ、経験を積み重ねる大事な時期であることを知る。 ・人間は胎児の頃から絶え間なく発達し続けることを知る。	・指導事項子供の発達の特性、乳幼児の発育と発達	【知識・技能】 保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 【思考・判断・表現】 子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】 子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	○	○	○	8
	子供の生活 ・生活習慣をどのように身につけていくのか理解する。 ・年齢ごとにどのように関わっていくかを理解する。	・子供の健康と生活、子供の食事、子供の衣服と寝具、子供の健康と安全	【知識・技能】 保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 【思考・判断・表現】 子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】 子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1

